

自然遊学館 だより

1997合宿特集号 (No. 12)

1997. 7. 01

自然遊学館グリーンカレッジ

夏季自然学習会

と き 1997年5月24日～25日

ところ 貝塚市木積 大阪府立少年自然の家

参加者 小学生男子19名 女子21名

中学生男子1名 女子5名

スタッフ 15名

内 容 5月24日(土)

灯火採集、バードウォッチングのための学習

宿舎敷地内 灯火採集

シュロのバツタづくり

5月25日(日)

早朝バードウォッチング(宿舎周辺と秋山川)

秋山川の水生昆虫採集

秋山川の動植物採集観察

採集生物の標本づくり

1997.5.24～25の

気象について

24日21時、500hPaで日本海中部に中心付近が-20℃以下の寒冷低気圧があり、これから南に気圧の谷が伸びている。925hPa、850hPaは湿っており、寒冷前線が近畿地方を通過中である。850hPaと500hPaとの温度差は約25℃で大気が大変不安定な状態である。

ASAS(地上天気図)24日21時では、日本海中部の低気圧から南に伸びる寒冷前線は表現されていないが、TSFE1(気象衛星による雲写真)及びレーダーエコー合成図でははっきりと線状の積乱雲が表現されている。

レーダーエコー合成図を見ると、08Z(17時)日本海から南に伸びる前線の雲域はゆっくり東に進み10Z(19時)には大阪府南部に達し、13Z(22時)にはほぼ通り過ぎている。

これらのエコー全体では東進しているが、個々のエコーセル(積乱雲)は、紀伊水道北部で発生、発達したものが700hPaの南西風により和歌山県北部から大阪府南部に入ってきたとみられる。

この日は、朝の内は天気も良く何の心配もないような天気と思われたが、午後からは次第に雲が厚くなり雨もパラつき風も強まってきた。大阪府下には雷注意報が出ていたがそれでも少年自然の家付近にいるかぎりにおいては、西の方から活発な寒冷前線が近づいていることは想像しがたいことであった。

幸いなことに、今回は強い雨雲が僅かの差で貝塚市の南側を通過したため夜間採集には事なきを得たが、もしもこれがかかっていたら、激しい雷雨となったと思われるので、野外観察の日は特に「青天の霹靂」とならないような注意深い気象実況の把握が必要である。

(松崎 徹)

関西航空地方気象台予報官・グリーンカレッジ運営委員

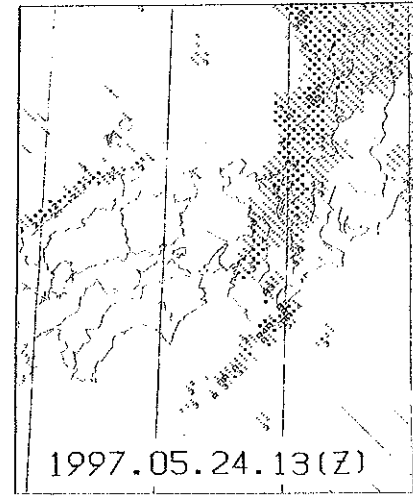
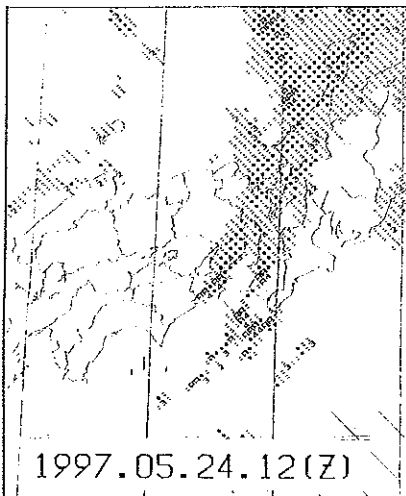
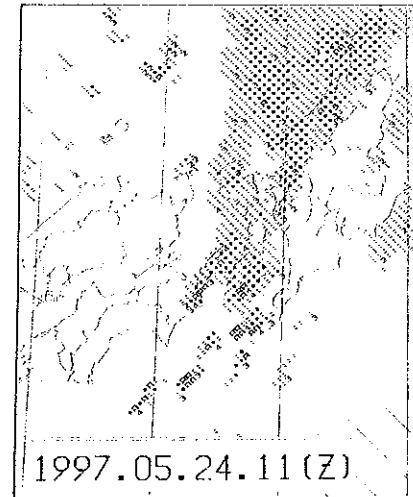
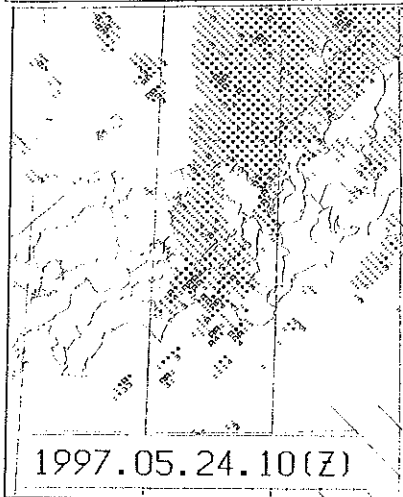
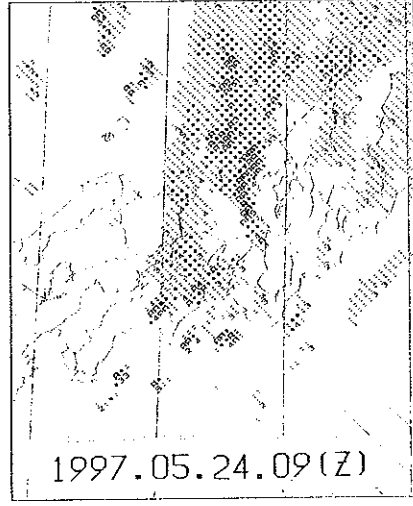
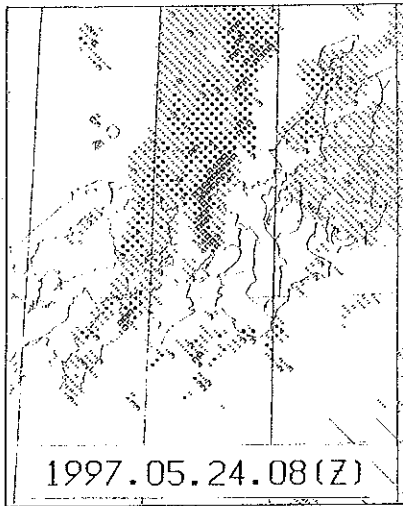
レーダーエコー合成図

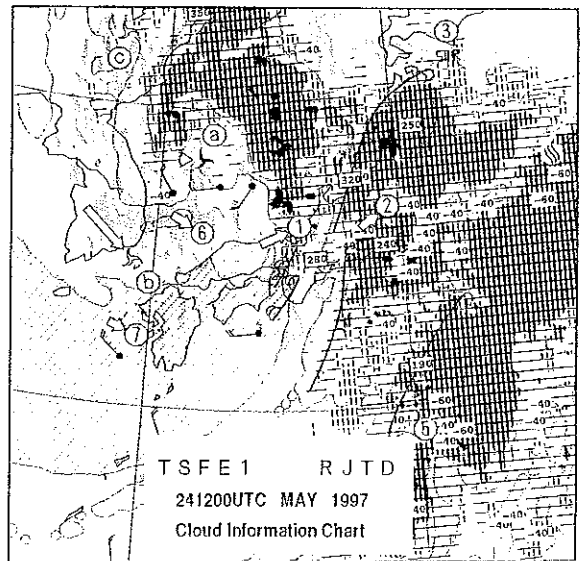
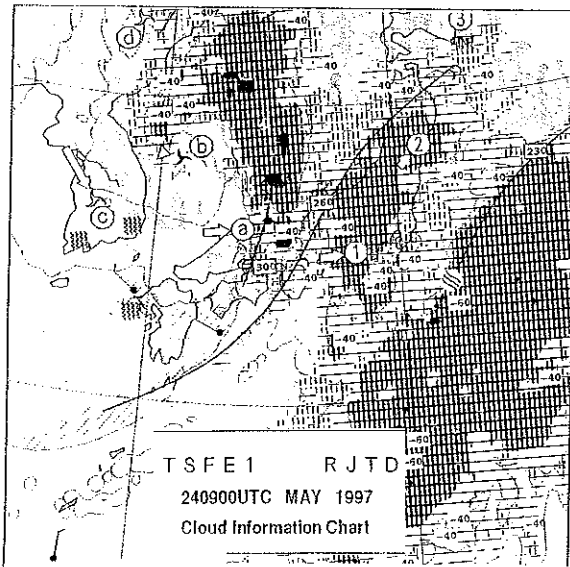
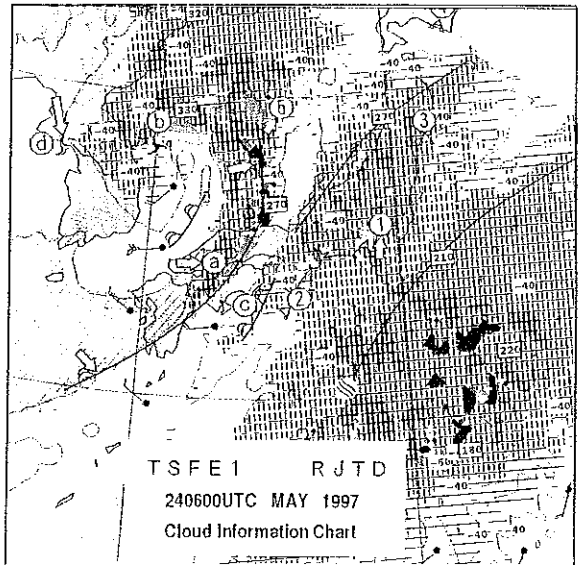
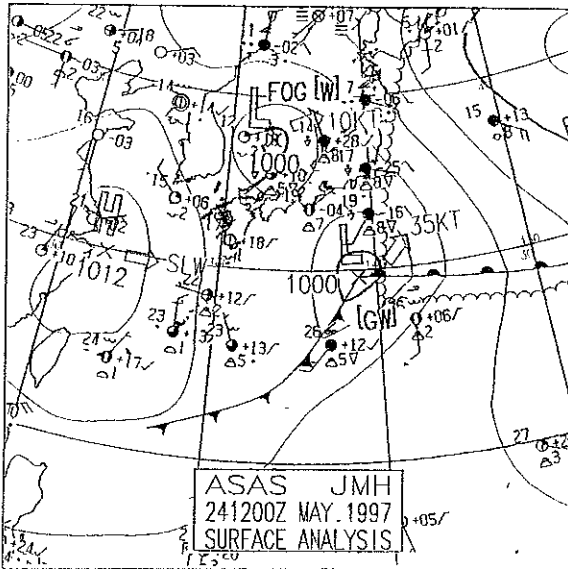
降水強度

記号	ニ	+	□	田
mm/h	0 ~	4 ~	16 ~	64 ~

高度

記号	1	2	3	4	5	6	7	8
x1000 F	0 ~	7 ~	13 ~	20 ~	24 ~	33 ~	39 ~	46 ~





夏季自然学習会で見られた鳥

今年の夏季自然学習会は、いつもより約1ヶ月早く行われました。この時期は、南の国から渡ってくる夏鳥や旅鳥の姿が見られたり、ここで繁殖をする鳥たちが、巣作りやきれいな囀りなどを聞かせてくれる頃でもあります。

さて、当日の朝。前の日の夜は寒冷前線が通過して雨も降ったため、天候にはかなり心配したのですが、予報官の松崎先生の予想どおり、まずまずの天気。6時前ごろから早起きの子供たちは少年自然の家の前あたりを走り回っていました。今回は子供たちだけということもあって、あまり遠出をせず秋山川をゆっくり見ることにしました。自然の家の周辺は雑木林になっていますが、その周りにはスギやヒノキの植林になっています。出発の前から、コゲラのギョーッというきしむような声や、ヤマガラの一チツチツというゆっくりとした囀りが、子供たちのざわめきの間から聞こえてきます。スズメの巣立ってまもないヒナが、親鳥に餌をねだっていました。

出発してすぐに、木のとっぺんでホオジロが胸をはって大きな声で囀っているのを見つけました。同じ場所ですと囀ってくれたので、(たぶん)全員がその姿を望遠鏡で見ることができたのですが、人数が多かったので、時間のかかること！秋山川への道に出るまでに、シジュウカラやカラヒワなどが姿を見せてくれたのですが、結局子供たちの半分くらいは、灯下採集の所に昆虫を見に行くことになりました。秋山川の道では、カラヒワやコゲラ、シジュウカラが見られました。前日の事前学習会の時に話をした、ヒヨドリの飛び方が波のようになっているということを、ちゃ

んと覚えていてくれていた子もいました。また、僕は見ることはできませんでしたが、カワセミを見つけたラッキーな子もいました。雑木林の中に入るあたりで、先に行っていた黒子先生が、オオルリが鳴いているのに気がついて教えてくれました。みんなでゆっくりと近づいて、その美しい姿を見ようと梢のあたりを探したのですが、結局どこにも見当たりませんでした。でも、その澄んだ囀りは全員が聞くことができました。帰り道で、上空をハチクマが飛んでいるのに気がつきました。トビと違ってしっぽの先が丸くなっているのを確認したり、首が長めで皮膚が堅くなっているのはどうしてなのか(地中にあるクロスズメバチなどのハチの巣を掘り返して食べるため)を、みんなで考えたりしました。渡りのシーズンにしては少し少なめの19種類(夜中に鳴いていたホトトギスを含めると20種類)しか見ることはできませんでしたが、これをきっかけにして、鳥に興味を持つ子が一人でも増えてくれればと思いました。

(中村 進)

府立砂川高校教諭・大阪府立大学研修員

★蕎原周辺で見られる鳥（◎印は今回見られた鳥）

科和名	種和名	区分	個体数	生息場所	その他
ワシタカ	◎ハチクマ トビ		夏鳥 留鳥	少数 少数	山 街・山
ハト	◎キジバト		留鳥	普通	街・山
ホトトギス	◎ホトトギス		夏鳥	少数	山 ウグイスに托卵
ヨタカ	ヨタカ		夏鳥	少数	山
フクロウ	フクロウ		留鳥	少数	山
カワセミ	◎カワセミ		留鳥	少数	水 辺
キツツキ	アオゲラ ◎コゲラ		留鳥 留鳥	少数 普通	山 山
ツバメ	◎ツバメ コシアカツバメ		夏鳥 夏鳥	普通 普通	街 街
セキレイ	キセキレイ ◎セグロセキレイ		留鳥 留鳥	普通 普通	水 辺 水 辺 24日に若鳥
ヒヨドリ	◎ヒヨドリ		留鳥	普通	街・山
ヒタキ	ヤブサメ ◎ウグイス ◎オオルリ サンコウチョウ		夏鳥 留鳥 夏鳥 夏鳥	少数 普通 少数 稀	山 山 山 山
エナガ	エナガ		留鳥	普通	山
シジュウカラ	◎ヤマガラ ◎シジュウカラ		留鳥 留鳥	普通 普通	山 山
メジロ	◎メジロ		留鳥	普通	山
ホオジロ	◎ホオジロ		留鳥	普通	山・草原
アトリ	◎カワラヒワ イカル		留鳥 留鳥	普通 少数	街・山 山
ハタオリドリ	◎スズメ		留鳥	普通	街
カラス	◎カケス ◎ハシボソガラス ◎ハシブトガラス		留鳥 留鳥 留鳥	少数 普通 普通	山 街 街
キジ	コジュケイ		留鳥	普通	山 帰化鳥
ハト	◎ドバト		留鳥	普通	街 帰化鳥

記録種数 31種 うち、本年度記録種数20種（◎印）

1997年少年自然の家合宿において採集された

昆虫

今年の少年自然の家の合宿(5.24-25)は、秋山川の水生動物調査と夜間の灯火採集に主力をおくものであったが、24日はあいにく夕刻から前半夜にかけて寒冷前線が通過し、豪雨が降るとの予報のため、2箇所(楽焼室の下と流星の森)に採集装置をセットしたが、宿舎から遠い流星の森のものを撤収し、近距離にあり、風当りの弱い楽焼室の下だけで行なった。点灯時間は午後7時から9時まで。当夜は小雨、時折り強い雨の降る天気、ときに突風の風が吹いた。気温は約14℃。好適条件の高温、無風からは程遠い状態であったので、飛来数は思わしいものではなかった。翌25日は大体良い天気であったので、午前中付近(少年自然の家から蕎原方面に100m程行き、右に折れて流れに沿った小道)の採集を行なった。

灯火採集中傍らのコナラの葉上でウスタビガの幼虫3匹を発見。飼育することにする。また子供達は採集場所の横に積んであるシイタケのほた木の中からコクワガタ(成虫)やカブトムシの幼虫を発見大喜びであった。採集昆虫リストを次ぎに示す。昼間採集のものは昼と付し、何も付してないものは灯火採集によるものである。

カワゲラ目

カワゲラの1種。

カメムシ目

ヘリカメムシ科

ヒメトゲヘリカメムシ 1♀, 昼。

アミメカゲロウ目

ヘビトンボ科

ヤマトクロスジヘビトンボ 1♀。

コウチュウ目

オサムシ科

オオオサムシ 1♀。

コガネムシ科

カバイロビロウドコガネ 多数飛来。

ジョウカイボン科

ジョウカイボン 数頭

ミヤマクビボソジョウカイ 1頭。

ハムシダマシ科

アカガネハムシダマシ 2頭。

カミキリモドキ科

アオカミキリモドキ 数頭。

ゾウムシ科

クリアナアキゾウムシ 1頭, 昼。

シリアゲムシ目

シリアゲムシ科

スカシシリアゲモドキ 多数飛来

今年は発生が多い。

トビケラ目

トビケラ類3種 多数飛来。

ヒゲナガトビケラ科

アオヒゲナガトビケラ 数頭。

チョウ目

キバガ科

イッシキチビキバガ 1♀。

ハマキガ科

シリグロハマキ 1♂

ヒカゲヒメハマキ 2♂, 2♀。

メイガ科

コガタシロモンノメイガ 1♀

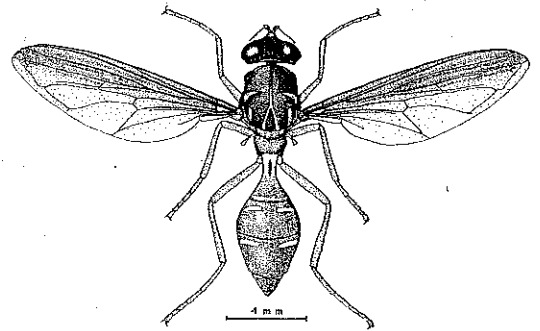
マエクロモンシロノメイガ 1♀

シロテンキノメイガ 1♂

ヒメシロノメイガ 1♀

トガリキノメイガ 1♀.
カギバガ科
マエキカギバ 2♂.
トガリバ科
アヤトガリバ 2♂.
シャクガ科
ウンモンオオシロヒメシャク 1♂
マエキヒメシャク 1♂
ホソスジキヒメシャク 1♀
ゴマダラシロナミシャク 1♂
アトスジグロナミシャク 1♀
クロスジアオナミシャク 1♀
ハグルマエダシャク 1♀
ゴマダラシロエダシャク 1♀
ナミガタエダシャク 1♂, 2♀
ナカウスエダシャク 1♂
フタヤマエダシャク 1♂
ヒロバウスアオエダシャク 1♀
コガタツバメエダシャク 1♂.
フタオガ科
キンモンガ 1♀.
ヒトリガ科
スジベニコケガ 1♂.
ヤガ科
テンオビヨトウ 1♂
キモンコヤガ 1♂
シロスジトモエ 1♂
カクモンキシタバ 1♀
ミスジアツバ 1♂
シロズアツバ 1♂
ウスグロアツバ 1♀
キイロアツバ 1♂.
ハチ目

ハバチ科
ハバチの1種, 昼.
ハエ目
ガガンボ科
マドガガンボ 数頭
マダラガガンボに似る 数頭
ヒメガガンボの1種 多数.
キノコバエ科
キノコバエの1種 多数.
シギアブ科
シギアブの1種.
ムシヒキアブ科
マガリケムシヒキ 1♂, 1♀, 昼
ハナアブ科
ヒメハチモドキハナアブ 1♂, 1♀,
ホソアシナガバチそっくりである(第1図).
ショウジョウバエ科
カザリコガネショウジョウバエ 1頭.



第1図. ヒメハチモドキハナアブ, ♀.
止まっている姿はホソアシナガバチ(スズメバチ科)にそっくりです。しかしよく見ると、触角が短いことと、はねが2枚(うしろばねは退化して平均こんとなっている)しかないのです、たやすくハチと区別できます。

昨年少年自然の家近くの梅に大発生していたアカボシテントウは1頭も発見できなかった。これは昨年の大発生でテントウムシの寄主タマカイガラを全部食べ尽くしたため自滅したものであろう。また今回昼間採集した小道にはスカシシリアゲモドキの大発生地があり、5月7日の予備調査の日には、300m程行った左側に生えているウラジロシダのしげみで一網10頭位の成虫が採れた。また、この、近くにはジャゴケが生えていてニッポンヒロコバネが発生していた。

(黒子 浩)

秋山川の生き物調べ

合宿での恒例行事となりました秋山川の生き物調べ、心配した天候ももちなおし今年も無事行われました。

子供44人がいっせいに川に入るのは多すぎるので、二班に分けて交互に調べることにしました。最初に川に入ったのは、行儀の良い(??)男子班で、平峰先生の「水生昆虫を見つけるには、水の中に足をじゃぶじゃぶ入らないで、そっと石をめくるんやで」という忠告を守るのもつかの間、気がつくとなぜか皆、ズボンまでびしょびしょの活躍ぶりでした。続いて、おしとやかな(??)女子班に交代し、さらに石という石をことごとくめぐり返していきました。こうして採集した生き物は、大築先生、平峰先生らにみてもらい、種類ごとにパッドに集めました。

また魚を採集する目的で、餌を入れたセルビンの仕掛けを沈めておいたところ、カワムツが多数採れました。

では、今回採集した生き物を以下に示します。

● 魚

コイ科

カワムツ

ハゼ科

カワヨシノボリ

● 甲殻類

サワガニ

ミナミヌマエビ

● 両生類

トノサマガエル
ツチガエル?
種不明のオタマジャクシ

● 他

石の裏に産みつけられた直径3mm位の卵、
約20個（カワヨシノボリのものと思われる）

● 水生昆虫

()内は個体数

カゲロウ目

シロタニガワカゲロウ	(3)
チラカゲロウ	(7)
コカゲロウ属の一種	(1)

トンボ目

オニヤンマ	(2)
コオニヤンマ	(2)
コヤマトンボ	(17)
ミヤマカワトンボ	(2)
サナエトンボ科の一種	(1)
ヤンマ科の一種	(1)

アミメカゲロウ目

ヘビトンボ	(11)
タイリククロスジヘビトンボ	(6)

トビケラ目

ニンギョウトビケラ	(1)
トビケラ科の一種	(1)

カメムシ目

シマアメンボ	(5)
--------	-----

(山田 浩二)

夏季自然学習会で観察した木直物

少年自然の家での夏季自然学習会も今年で4回目である。過去3回は、いずれも6・7月に実施したが、今回は5月ということで野外へ出るには最適の気候であった。植物も例年に比べ開花中のものも多く、観察には好都合であった。

旧暦ではまだ卯月（4月）、うのはな（ウツギ）は谷筋や山の斜面の崩壊地跡などで、たくさん見られた。かつて、この花は田植えの適期を示す目印になったと言われるだけに、真っ白い花を一斉につけていた。同属のマルバウツギの方は、ほぼ花の時期を過ぎたが、まだ開花中のものもあった。

ホオノキも花の時期で、大きな葉と直径1.5cmほどの白い花は、遠目にもその存在がよく分かる。樹皮の繊維がきめ細かく、良質の和紙の原料になるガンピも枝先に黄色の小さい花をつけていた。ネジキは、小さいつぼみの白い花を穂状にたくさんぶらさげている。

草本では、谷筋の湿った所でドクダミの白い花、駐車場下の草原斜面では、赤紫色のノアザミや黄色い花のコオゾリナが花盛りであった。ホタルブクロは開花寸前、大きなつぼみを膨らませていた。

路傍ではキキョウソウ・ヒメコバンソウ・ナキナタガヤ・シロツメクサなどの帰化植物も開花中であった。

本館北側斜面の道ばたでは、例年この場所に見られる帰化植物のアメリカヒキヨモギが今年も黄色い花をつけていた。その近くのササユリも例年は花が見られたが、今年はまだつぼみである。

今回の観察は、自然の家の周辺から秋山川上部及び、自然の家入口付近より大左近林道に沿った部分で、開花中のものは26科56種であった。次の表はそのリストである。

きく科……ノアザミ・コウゾリナ・ニガナ・ノゲシ・ハハコグサ・チチコグサ
ききょう科…キキョウソウ（婦）・ホタルブクロ
すいかずら科…スイカズラ
ごまのはぐさ科…オオイヌノフグリ（婦）
なす科……イヌホオズキ
しそ科……トウバナ
つつじ科…モチツツジ・ネジキ
じんちょうげ科…ガンピ
もちのき科…ソヨゴ
かたばみ科…カタバミ・ムラサキカタバミ（婦）
まめ科……カラスノエンドウ・コメツブツメクサ（婦）・コメツブウマゴヤシ（婦）シロツメクサ（婦）
ばら科……ヘビイチゴ・オヘビイチゴ
ゆきのした科…ウツギ・マルバウツギ
べんけいそう科…コモチマンネングサ
どくだみ科…ドクダミ
きんぼうげ科…ウマノアシガタ・キツネノボタン
もくれん科…ホオノキ
なでしこ科…ハコベ・ウシハコベ・ツメクサ
たで科……スイバ・アレチギシギシ（婦）
くわ科……ヒメコウゾ
ぶな科……クリ
あやめ科…ニワゼキショウ（婦）
ゆり科……ソクシンラン・ナルコユリ・ミヤマナルコユリ
いぐさ科…イグサ・ホソイ・クサイ・スズメノヤリ
かやつりぐさ科…ジュズスゲ
いね科……カモジグサ・アオカモジ・チガヤ・カニツリグサ・スズメノカタビラ・ヒメコバンソウ（婦）・ナギナタガヤ（婦）

カモガヤ（婦）・オニウシノケグサ（婦）

（上久保文貴 白木江都子 湯浅幸子）

自然遊学館だより

1997合宿特集号 No. 12

編集 白木江都子

発行者 上久保文貴

発行所 自然遊学館

貝塚市二色3丁目26-1

休館日 毎週火曜日